

令和8年10月29日

令和8年度病害虫防除技術情報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

野菜・花き類においてチョウ目害虫の発生に注意してください

県中部において、シロイチモジヨトウ(図2)、オオタバコガ(図3)の発生が平年より多くなっています。また、ハスモンヨトウ(図4)のフェロモントラップ誘殺数が平年よりやや多くなっています。ほ場内での発生状況を確認し防除を徹底しましょう。

1. 病害虫名：チョウ目害虫（シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ）
2. 対象作物：野菜、花き類（キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、エンドウ類、イチゴ、トマト、ピーマン、トルコギキョウ、スターチス等）
3. 対象地域：県中部
4. 発生時期：11月
5. 発生状況と今後の予測
 - 1) 県中部のエンドウにおける10月下旬の幼虫の発生は、シロイチモジヨトウおよびオオタバコガが平年に比べて多い状況でした（表1）。
 - 2) 御坊市のフェロモントラップによる10月1日～20日の成虫誘殺数は、シロイチモジヨトウ166頭（平年95.4頭）、オオタバコガ47頭（平年48.4頭）、ハスモンヨトウ4,027頭（平年3,408頭）であり、ハスモンヨトウが平年よりやや多い状況でした（図1）。
 - 3) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう1か月（10月24日～11月23日）の平均気温は高い確率が70%とされています。今後、気温が高く推移し、幼虫による被害が拡大するおそれがあります。
6. 防除対策
 - 1) ほ場をよく見回り、早期発見に努めてください。シロイチモジヨトウの幼虫は作物の芯部に、オオタバコガの幼虫は果実に潜り込む性質があります。
 - 2) シロイチモジヨトウおよびハスモンヨトウは卵塊を葉裏に産み付けます。見つけ次第、卵塊は除去し、分散前の幼虫は捕殺してください。
 - 3) 幼虫が中～老齢になると薬剤の防除効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底してください。
 - 4) シロイチモジヨトウについては、ジアミド剤、ピレスロイド剤等に対して感受性の低下が確認されています。ハスモンヨトウについても、一部個体群では合成ピレスロイド剤、BT剤、ジアミド剤、プレオフロアブルに対して感受性低下が認められています（令和7年度防除技術情報第8号）。ほ場内でシロイチモジヨトウやハスモンヨトウの発生が確認された際、これらの薬剤の使用は控えてください。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用を避けてください。
 - 5) シロイチモジヨトウやハスモンヨトウの成虫に対しては、物理的防除（黄色防蛾灯、防虫ネット被覆）や性フェロモン剤による交信攪乱など、複数の方法を組み合わせた総合的な防除が有効です。
 - 6) 薬剤については、最新の登録情報（農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用してください。

表1 エンドウ類における主なチョウ目害虫発生状況（県中部、調査時期：10月）

		平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	平年	令和8年 (本年)
シロイチモジヨトウ	発生ほ場率(%)	14	13	5	0	0	0	0	0	13	20	7	20
	生息株率(%)	1.4	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	2.0	0.7	2.0
オオタバコガ	発生ほ場率(%)	0	7	5	0	9	18	12	24	20	7	10	60
	生息株率(%)	0.0	1.3	0.5	0.0	0.9	1.8	1.8	3.5	4.0	0.7	1.4	6.0
ハスモンヨトウ	発生ほ場率(%)	36	27	32	0	27	18	0	0	60	13	21	20
	生息株率(%)	5.7	8.6	4.7	0.0	2.7	1.8	0.0	0.0	8.7	2.0	3.4	3.0

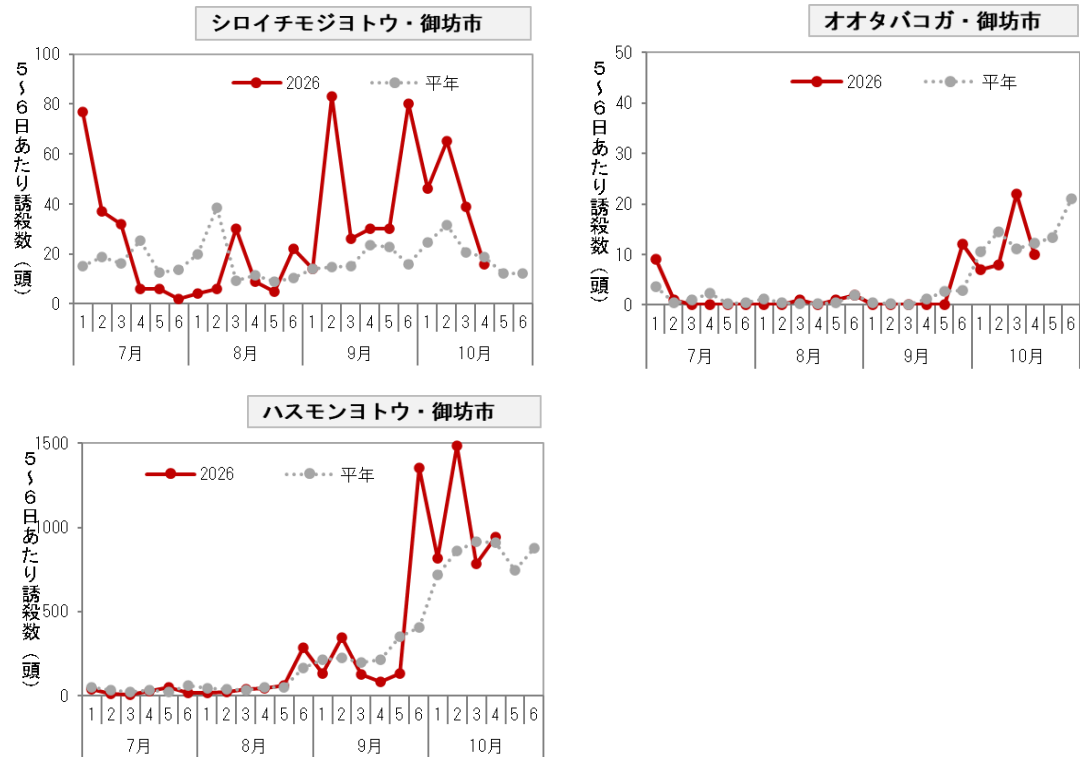


図1 フェロモントラップによる誘殺数の推移
※図の横軸の数字は半旬（1：1～5日、2：6～10日、3：11～15日、4：16～20日、5：21～25日、6：26～30日または31日）を示す。



図2 シロイチモジヨトウ（左：卵塊、右：幼虫）



図3 オオタバコガ（幼虫）



図4 ハスモンヨトウ（左：卵塊、右：幼虫）

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300